

平成29年度

主要農作物奨励品種特性表

熊 本 県



## 目 次

1 特性表の利用にあたって	
(1) 利用上の注意	・ ・ ・ ・ ・ P1
(2) 種子の更新	・ ・ ・ ・ ・ P1
(3) 稲作地域区分	・ ・ ・ ・ ・ P1～2
2 水稻奨励品種特性表	
(1) 水稻うるち奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P3～4
(2) 水稻米粉等奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P3～4
(3) 水稻もち奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P3～4
(4) 水稻うるち奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P5～6
(5) 水稻米粉等奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P5～6
(6) 水稻もち奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P5～6
3 麦類奨励品種特性表	
(1) 小麦奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P7～8
(2) 大麦奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P7～8
(3) 裸麦奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P7～8
(4) 麦類奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P9～10
4 大豆奨励品種特性表	
(1) 秋大豆奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P11～12
(2) 秋大豆奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P13～14
5 参考資料	
(1) 水稻奨励品種別作付面積の推移	・ ・ ・ ・ ・ P15
(2) 麦類奨励品種別作付面積の推移	・ ・ ・ ・ ・ P16
(3) 大豆奨励品種別作付面積の推移	・ ・ ・ ・ ・ P17
(4) 水稻奨励品種の改廃	・ ・ ・ ・ ・ P18～19
(5) 麦類奨励品種の改廃	・ ・ ・ ・ ・ P20
(6) 大豆奨励品種の改廃	・ ・ ・ ・ ・ P21
(7) 熊本県主要農作物奨励品種調査基準及び奨励品種決定規準	・ ・ ・ ・ ・ P22～24

## 1 特性表の利用にあたって

### (1) 利用上の注意

#### a 編集の概要

本表は、熊本県の主要農作物（稲、麦、大豆）奨励品種及び認定品種について、県の奨励品種決定調査で得られた成績等によって明らかにされた品種の諸特性を集約したものです。

#### b 評価の方法

本表に示された「難易」「多少」「強弱」等の評価は、県で定めた指定品種、比較品種等との相対的な比較によって得られたものです。

#### c 表示項目の取扱い

本表に示された品種特性は、あくまでも試験研究機関で得られた成績に基づくもので、一般農家の平均値ではないことに留意して利用して下さい。

本表中の出穂期、成熟期は、試験研究機関における標準的な栽培条件によるものですので、おおよその目安とし、農家個々のほ場の収穫については、籾の黄化率や積算気温等を考慮して、適期刈取に努めて下さい。

いもち病等の耐病性については、菌の系統によって異なる場合があること等に留意して、適期防除に努めてください。

### (2) 種子の更新

#### a 種子更新の必要性

毎年自家採種を続けていると品種の特性が退化してしまうので、種子を更新する必要があります。

(品種特性の退化)

- ・ 品質が劣化し、商品性が低下します。
- ・ 収量が低下します。
- ・ 病害虫の抵抗性が低下します。

(品種特性が退化する原因)

突然変異、自然交雑、異品種の混入、病害虫の発生等により品種特性が退化します。

#### b 種子更新の効果

- ① 品種、耐病性、その他の特性の退化を防ぎ、商品性を向上させます。
- ② 自家採種を3～4年続けた場合の収量の漸減を防ぎます。

#### c 優良品種の生産

県は奨励品種の優良な種子の生産を行うため、採種ほを指定し、優良種子の生産指導及びほ場、生産物の審査を実施しています。

指定採種ほで生産された種子は、以下にある厳重な栽培管理のもとで生産された純度の高い優良な種子です。

- ① 原種による種子生産と入念な異品種の抜き取り
- ② 病害虫防除の徹底と罹病株除去
- ③ 種子専用機械による収穫・乾燥・調製
- ④ 発芽試験や種子検査による品質の保証

### (3) 稲作地域区分

高冷地から海岸島しょまで多岐にわたる立地条件を生かすとともに、品種の集約やロットの拡大のため、高冷地、山麓準平坦、平坦の3地域に区分し、良食味品種の配置を行います。また、気象災害回避や機械・施設の有効利用、規模拡大に伴う作期幅の拡大等地域の実情を踏まえ、特定品種への偏りを是正するため、地域毎に2～3の販売力のある品種へ作付けを誘導し、品種構成の適正化を図ることにしています。

- ① 高冷地：阿蘇、上益城のおおむね標高300m以上の地域
- ② 山麓準平坦：宇城、玉名、鹿本、菊池、阿蘇、上益城、八代、球磨のおおむね標高100～300mの地域
- ③ 平坦：熊本、玉名、上益城、宇城、八代、芦北、天草のおおむね標高100m未満の地域

水稻奨励品種の作付地域一覧

品種		地域区分		
		高冷地域	山麓準平坦地域	平坦地域
うるち	わ さ も ん	○	○	○早期
	コシヒカリ	◎	○	◎早期
	キヌヒカリ			◎早期
	い た だ き	○	○山間部	
	あきげしき	◎	○山間部	
	ヒノヒカリ		◎	
	森のくまさん		○	◎
	くまさんの力		○	◎
	くまさんの輝き		◎	
	山 田 錦	○	○	
	華 錦	○	○	○
	あきまさり		○	◎
	米粉等	ミズホチカラ		○
北陸193号		○	○	○
もち	峰の雪もち			○早期
	ヒヨクモチ			◎

◎：基幹品種 ○：補完品種 山間部：山間部のみ 早期：早期栽培

## 2 水稻奨励品種特性表

### (1) 水稻うるち奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年
極早	わさもん	認定	熊本GR05	越南175号/きらり宮崎	H23
極早	コシヒカリ	奨励	越南17号	農林22号/農林1号	S56
極早	キヌヒカリ	奨励	北陸122号	収2800/北陸100号) F1//北陸96号	H3
早早	いただき	認定	北陸179号	収4885/収4695	H12
早晩	あきげしき	奨励	南海131号	西海199号/ヒノヒカリ	H9
中中	ヒノヒカリ	奨励	南海102号	黄金晴/コシヒカリ	H1
中中	森のくまさん	奨励	熊本2号	ヒノヒカリ/コシヒカリ	H9
中中	くまさんの力	奨励	熊本A49号	ヒノヒカリ/北陸174号	H20
中中	くまさんの輝き	奨励	熊本58号	南海137号/中部98号	H29
中晩	山田錦	認定	山渡50~7	山田穂/短稈渡船	H1
中晩	華錦	認定	熊育GR06	夢いずみ/山田錦	H27
晩晩	あきまさり	奨励	西海248号	かりの舞/あきさやか	H17

### (2) 水稻米粉等奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年
晩晩	ミズホチカラ	認定	西海203号	奥羽326号/86SH283	H22
晩晩	北陸193号	認定	北陸193号	上344/桂長2号	H22

### (3) 水稻もち奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早早	峰の雪もち	認定	北陸糯141号	奥羽302号/ヒメノモチ	H8
晩晩	ヒヨクモチ	奨励	西海糯118号		S59

特性及び栽培上の注意点

食味は極良。コシヒカリより収穫が早い極早生種。コシヒカリより品質が優れ、耐倒伏性は中程度である。いもち病には強い。白葉枯病に弱いので常発地での栽培は避ける。

品質・食味は極良。やや長稈で倒伏に弱い。いもち病にやや弱い。

コシヒカリより穂発芽しやすい。食味はコシヒカリと同程度であるが粘りが強い。

食味は極良。いもち病、白葉枯病にやや弱いので、多肥栽培は避ける。

食味は極良。いもち病にやや弱いので、多肥栽培は避ける。

食味は極良。倒伏にはやや弱く、いもち病、白葉枯病にやや弱い。適期刈取幅が短いので注意。多肥栽培は避ける。

食味は極良。倒伏にはやや弱く、いもち病、白葉枯病にやや弱い。適期刈取幅が短いので注意。多肥栽培は避ける。

玄米の外観品質が良好で心白、乳白、背白、基白等の白未熟粒の発生が少ない。食味は極良。いもち病にやや弱い。平坦地域及び山麓準平坦地域に適する。

食味は極良で特に粘りが強い。高温登熟性が良く玄米の外観品質が良好である。短稈、穂数型、倒伏しにくい。いもち病、白葉枯病にはやや弱い。多肥栽培は避ける。

大粒、醸造適性極良、倒伏弱。縞葉枯病に弱く、穂発芽性易。

酒造好適米として品質良好。偏穂数型、倒伏には中程度に強い。いもち病に弱いため、栽培管理に注意。

多収で食味はユメヒカリより良い。倒伏に強い。白葉枯病にやや弱い。登熟期間がやや長く、熟ムラが出やすいので穂揃いを良くし、後期の水管理に注意する。

特性及び栽培上の注意点

米粉用米として適する。高冷地での栽培は不適。短稈穂重型、多収、耐倒伏性極強。ベンゾビスクロンやテフリルトリオン等の剤に感受性を示すため、該当剤を含まない除草剤を使用する。白葉枯病に弱。登熟期間が長いためやや早植えとする。

米粉用米、多用途米として適する。やや短稈、極穂重型、極多収で耐倒伏性極強。粒形やや細長。脱粒性はやや易。休眠性が強いいため休眠打破を行う。登熟期間が長いためやや早植えとする。

特性及び栽培上の注意点

品質・食味は良好。短稈で倒伏には強い。穂いもちにやや弱い。ふ先色が黄白であることに留意する。早期、肥沃地域に適する。

良質、多収。ふ先色は登熟初期には不鮮明であるが、後期は判別可能。

(4) 水稻うるち奨励品種特性表

栽培型	試験地	品種名	供試年次	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	一穂 粒数	及芒 びの 長多 短少	ふ 先 色
早期	天草	コシヒカリ	S54~H14	7/9	8/10	88	18.4	436	—	無	白
		キヌヒカリ	S63~H14	7/10	8/12	76	17.5	424	—	無	黄白
	天現	わさもん	H24~H26	7/2	8/3	83	20.6	450	—	稀・極短	黄白
普通期	高原農研	コシヒカリ	H25~H27	8/6	9/18	95	17.8	383	—	無	白
		いただき	H25~H27	8/12	9/27	76	19.0	341	—	稀短	黄白
		あきげしき	H25~H27	8/14	10/4	82	19.1	358	—	無	黄白
	矢	山田錦	H25~H27	8/15	10/9	115	21.3	385	—	無	黄白
		華錦	H25~H27	8/16	10/9	87	17.6	426	—	やや少・中	黄白
	農産園芸研究所	わさもん	H21~H23	8/12	9/16	87	19.7	369	70.8	稀・極短	黄白
		ヒノヒカリ	H25~H27	8/24	10/13	86	19.7	334	—	無	白
		森のくまさん	H25~H27	8/24	10/13	86	20.1	333	—	稀短	黄白
		くまさんの力	H25~H27	8/26	10/15	82	23.4	305	—	少やや短	黄白
		くまさんの輝き	H25~H27	8/27	10/13	82	19.5	388	—	稀・極短	黄白
		あきまさり	H25~H27	9/1	10/20	85	20.8	346	—	稀短	黄白

注1) 試験地 天草：天草農研（本渡市）播種3/25移植4/19、天現：天草現地（五和町）播種3/20移植4/13、高原農研（阿蘇市）播種5/2 移植5/23、矢：矢部試験地（山都町）播種4/20移植5/20、農産園芸研究所（合志市）播種5/21移植6/20

注2) 供試年次のうちH11、H28は除く。

(5) 水稻米粉等奨励品種特性表

栽培型	試験地	品種名	供試年次	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	一穂 粒数	及芒 びの 長多 短少	ふ 先 色
普通期	農	ミズホチカラ	H25~H27	8/31	10/30	76	21.6	229	—	無	黄白
	農	北陸193号	H25~H27	8/30	10/24	86	26.4	225	—	稀短	黄白

注1) 試験地 農：農産園芸研究所（合志市）播種5/21移植6/20

注2) 供試年次のうちH28は除く。

(6) 水稻もち奨励品種特性表

栽培型	試験地	品種名	供試年次	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	一穂 粒数	及芒 びの 長多 短少	ふ 先 色
早期	天	峰の雪もち	H5~H10	7/5	8/6	65	18.5	395	—	極稀・短	黄白
普通期	農	ヒヨクモチ	H23~H25	9/2	10/28	74	19.1	407	—	稀短	淡褐

注1) 試験地 天：天草農研（本渡市）播種3/25移植4/21、農：農産園芸研究所（合志市）播種5/20移植6/20



着粒密度	草型	脱粒性	耐倒伏性	穂発芽性	千粒重 g	玄米重 kg/10a	品質	食味	耐病性		
									葉いもち	穂いもち	白葉枯
中	偏穂数	難	弱	難	20.9	456	中の上	上の上	中	弱	中
やや密	中間	難	強	やや易	21.2	483	上の下	上の中	中	中	中
中	中間	難	中	難	22.1	478	中の中	上の中	強	強	弱
中	偏穂数	難	弱	難	22.1	592	中の中	上の上	中	弱	中
やや密	中間	難	強	難	24.3	673	中の中	上の上	中	やや弱	やや弱
やや密	中間	難	やや強	難	22.9	635	中の上	上の中	やや弱	やや弱	中
中	偏穂重	易	弱	易	26.9	497	—	—	弱	弱	やや弱
中	偏穂数	やや易	中	中	25.8	547	—	—	弱	やや弱	—
中	中間	難	中	難	23.8	515	上の中	上の中	強	強	弱
やや密	偏穂重	難	やや弱	難	22.6	575	中の中	上の中	やや弱	やや弱	やや弱
中	偏穂重	難	やや弱	難	22.9	569	中の中	上の中	やや弱	やや弱	中
中	偏穂重	難	中	やや難	24.2	594	中の上	上の中	やや弱	やや弱	弱
やや疎	穂数型	難	やや強	中	23.6	588	中の上	上の中	やや弱	やや弱	やや弱
やや密	偏穂重	中	強	中	23.1	589	中の上	上の中	やや弱	中	やや弱

着粒密度	草型	脱粒性	耐倒伏性	穂発芽性	千粒重 g	玄米重 kg/10a	品質	食味	耐病性		
									葉いもち	穂いもち	白葉枯
密	穂重	難	極強	やや易	23.2	683	—	—	不明	不明	弱
密	極穂重	やや易	極強	やや難	23.9	671	—	—	不明	不明	やや強

着粒密度	草型	脱粒性	耐倒伏性	穂発芽性	千粒重 g	玄米重 kg/10a	品質	食味	耐病性		
									葉いもち	穂いもち	白葉枯
やや密	偏穂重	難	強	難	22.7	—	—	—	中	やや弱	中
中	穂数	やや難	極強	難	22.7	666	中の中	—	やや強	やや強	強

### 3 麦類奨励品種特性表

#### (1) 小麦奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早	シロガネコムギ	奨励	西海120号	シラサギコムギ/西海104号	S62
早	チクゴイズミ	奨励	西海171号	関東107号/アサカゼコムギ	H6
早	ニシノカオリ	認定	西海180号	北見春42号/アブクマワセ	H15
早	ミナミノカオリ	認定	西海186号	pampa INTA/西海167号	H16

#### (2) 大麦奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早	ニシノホシ	奨励	西海皮54号	西海皮38号/栃系145	H11
早	はるしずく	奨励	九州二条17号	ミハルゴールド/栃系225	H16

#### (3) 裸麦奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早	イチバンボシ	認定	四国裸90号	四国裸58号 (センボンハダカ) /四R系697	H6

特性及び栽培上の注意点

短稈、良質、多収品種で、白ふ。

短稈、多収品種で、白ふ。

硬質小麦。タンパク質含有率高く、菓子パンに向く。ふ色は淡黄色。赤かび病に対する抵抗性は、十分ではない。

硬質小麦。タンパク質含有率高く、パン加工適性高い。ふ色は褐色。赤かび病に対する抵抗性は、十分ではない。

特性及び栽培上の注意点

短稈、良質、多収。稈が中折れしやすい。精麦特性に優れ、デンプン価が高い。

良質、多収。縞萎縮病Ⅰ型Ⅲ型に抵抗性を持つ。精麦、醸造適性は高い。

特性及び栽培上の注意点

良質、多収品種。赤かび、うどんこ病への抵抗性は十分ではない。

(4) 麦類奨励品種特性表

麦種	品種名	供試年次	秋播性 程 度	出 穂 期	成 熟 期	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m <sup>2</sup>	芒 の 長 短	株 の 開 閉	穂 発 芽 性	脱 粒 性
小麦	シロガネコムギ	H26～H28	Ⅱ	4/4	5/23	76	8.0	379	長	開	易	易
	チクゴイズミ	H26～H28	I～Ⅱ	4/2	5/23	84	8.6	366	長	開	難	—
	ニシノカオリ	H26～H28	I	4/6	5/27	89	7.7	353	長	開	易	易
	ミナミノカオリ	H26～H28	I	4/8	5/27	83	7.8	360	長	開	難	—
大麦	ニシノホシ	H26～H28	I	3/28	5/14	87	6.3	471	長	やや閉	中	中
	はるしずく	H26～H28	I	3/29	5/15	87	6.4	481	—	—	—	—
裸麦	イチバンボシ	H21～H23	V	3/27	5/17	79	5.1	481	中	開	難	難

注) 試験地 農産園芸研究所(合志市) 播種期: 小麦11/21、大麦・裸麦11/21

子実		収量 kg/10a	粒質	粒色	外観品質	粗蛋白含量 60%粉 %	精麦白度	耐倒伏性	耐病性		
容積重 g	千粒重 g								赤かび	うどんこ	縞萎縮
812	35.8	347	—	—	—	9.5	—	強	中	中	強
807	39.1	397	—	—	—	8.5	—	強	中	やや弱	強
811	42.0	332	—	—	—	12.9	—	強	中	強	強
808	39.4	344	—	—	—	13.0	—	強	やや弱	やや強	強
682	44.5	370	やや硝子質	—	—	—	大	やや強	やや強	極強	極強
683	44.7	384	—	—	—	—	—	やや強	やや強	極強	極強
803	31.3	370	軟質	黄褐	中の上	—	42.4	強	中	中	強

#### 4 大豆奨励品種特性表

##### (1) 秋大豆奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
中	すずおとめ	認定	九州129号	納豆小粒/九系50	H17
やや晩	すずかれん	認定	九州156号	九州129号/IAC100	H23
晩	フクユタカ	奨励	九州86号	岡大豆/白大豆3号	S56

特性及び栽培上の注意点

納豆用小粒大豆。粒揃い良く、良質。紫斑粒は少ない。最下着莢位置が低いため収穫時の汚損に注意する。

納豆用小粒大豆。葉焼病およびハスモンヨトウに強い。最下着莢位置が低いため収穫時の汚損に注意する。

やや短茎、良質。褐斑粒、種皮の裂皮はやや少ない。

(2) 秋大豆奨励品種特性表

品種名	供試年次	開 花 期	成 熟 期	生 態 型	主 茎 長 cm	主 茎 節 数 節	分 枝 数 本	伸 育 性	花 色	毛 茸 の 色	莢 色	種 皮 の 色	種 皮 の 亀 裂	粒 の 光 沢
すずおとめ	H20～H22	8/16	10/24	IVc	72	15.2	4.7	有限	紫	褐	褐	黄白	微	弱
すずかれん	H26～H28	8/24	11/1	IVc	51	13.3	9.5	有限	紫	褐	褐	黄白	微	弱
フクユタカ	H26～H28	8/23	11/10	IVc	60	14.0	8.2	有限	紫	白	淡褐	黄白	少～中	弱

注1) 試験地 農産園芸研究所(合志市) フクユタカ播種7/8、すずおとめ播種7/6、すずかれん7/8



粒 形	臍 の 色	百 粒 重 g	収 量 kg/10a	耐 倒 伏 性	耐病性			
					紫斑病	ウイルス病	葉焼病	褐斑病
球	黄	12.8	287	強	強	強	中	強
球	黄	15.0	331	強	強	弱	強	強
球	淡褐	31.4	371	強	中	中	弱	強～極強

5 参考資料

(1) 水稲奨励品種別作付面積の推移

産年 品種名		産年								
		20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産
うるち	わさもん					4 0%	9 0%	15 0%	13 0%	14 0%
	コシヒカリ	5,576 14%	5,076 13%	4,749 12%	4,499 12%	4,508 12%	4,412 12%	4,094 11%	3,788 11%	3,554 11%
	キヌヒカリ	883 2%	928 2%	941 2%	958 3%	984 3%	1,048 3%	1034 3%	957 3%	867 3%
	いただき	157 0%	52 0%	61 0%	49 0%	48 0%	43 0%	40 0%	33 0%	22 0%
	あきげしき	1,316 3%	1,289 3%	1,408 4%	1,415 4%	1,389 4%	1,286 3%	1,376 4%	1,273 4%	1,169 4%
	ヒノヒカリ	19,378 49%	19,620 49%	19,626 50%	19,314 51%	19,267 51%	20,246 53%	19,496 52%	17,735 50%	16,685 49%
	森のくまさん	5,748 14%	5,508 14%	4,662 12%	4,207 11%	4,275 11%	4,134 11%	3,900 10%	4,434 12%	4,708 14%
	くまさんの力		289 1%	1,234 3%	1,323 3%	1,217 3%	1,199 3%	1,200 3%	1,077 3%	923 3%
	山田錦				12 0%	18 0%	17 0%	19 0%	63 0%	57 0%
	華錦								8.5 0%	15 0%
	あきまさり	1,978 5%	2,320 6%	1,818 5%	1,521 4%	1,589 4%	1,469 4%	1,710 5%	1,398 4%	1,101 3%
米粉等	ミズホチカラ			166 0%	91 0%	86 0%	86 0%	222 1%	192 1%	213 1%
	北陸193号			19 0%	2 0%	8 0%	1 0%	0 0%	0 0%	0 0%
もち	峰の雪もち	97 0%	103 0%	79 0%	87 0%	61 0%	48 0%	90 0%	134 0%	77 0%
	ヒヨクモチ	2,933 7%	2,788 7%	2,900 7%	2,953 8%	2,835 7%	2,317 6%	2,134 6%	2,591 7%	2,517 8%
水稲作付面積		39,700	39,700	39,500	37,900	38,100	38,400	37,500	35,600	33,800

注) 水稲作付面積は農林水産統計値。品種別作付面積は農産園芸課調べ

(2) 麦類奨励品種別作付面積の推移

産年 品種名		20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産
		小麦	シロガネコムキ 2,860 59%	2,608 58%	2,545 55%	2,608 53%	2,560 52%	2,420 52%	2,000 42%	1,960 40%
	チクゴイズミ 1,300 27%	1,233 27%	1,242 27%	1,336 27%	1,360 28%	1,335 29%	1,200 25%	1,225 25%	1,097 22%	
	ニシノカオリ 260 5%	233 5%	234 5%	243 5%	270 6%	225 5%	210 4%	245 5%	234 4%	
	ミナミノカオリ 400 8%	456 10%	599 13%	703 14%	700 14%	660 14%	1,300 28%	1,447 30%	1,773 35%	
小麦作付面積		4,820	4,530	4,620	4,890	4,890	4,640	4,710	4,900	5,080
大麦	ニシノホシ 850 48%	883 54%	875 53%	890 51%	870 54%	870 58%	200 12%	190 11%	196 11%	
	はるしづく 920 52%	757 46%	775 47%	840 49%	750 46%	750 50%	1,500 88%	1,540 89%	1,584 89%	
大麦作付面積		1,770	1,640	1,650	1,730	1,620	1,490	1,700	1,730	1,780
裸麦	イチバンボシ 20 65%	20 65%	17 36%	20 37%	20 37%	20 37%	20 37%	14 20%	14 16%	
裸麦作付面積		31	31	47	54	54	54	54	73	86

注) 麦類毎の作付面積は農林水産統計値。品種別作付面積は農産園芸課調べ

(3) 大豆奨励品種別作付面積の推移

産年 品種名		20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産
		秋大豆	フクユタカ	2,944 #DIV/0!	2,870 #DIV/0!	2,496 #DIV/0!	2,415 #DIV/0!	2,091 #DIV/0!	1,833 90%	1961 96%
すずおとめ	46 #DIV/0!		30 #DIV/0!	30 #DIV/0!	29 #DIV/0!	29 #DIV/0!	24 1%	24 1%	13 1%	62 2%
すずかれん					0 #DIV/0!	1 #DIV/0!	1 0%	4 0%	4 0%	8 0%
大豆作付面積		2,990	2,900	2,550	2,470	2,150	2,030	2,050	2,090	2,680

注) 大豆作付面積は農林水産統計値。品種別作付面積は農産園芸課調べ

## (4) 水稲奨励品種の改廃

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
1号雄町	大正5年	昭和10年		
1号神力	大正11年	昭和5年		
九州8号	大正11年	昭和13年		
福神	大正12年	昭和9年		
旭号	大正12年	昭和4年		
神力もち	大正13年	昭和24年		
1号山北坊主	大正13年	昭和7年		
旭1号	昭和4年	昭和37年		
宝	昭和6年	昭和36年	昭和36年	昭和37年
神光	昭和7年	昭和13年		
早生旭	昭和9年	昭和14年		
農林12号	昭和13年	昭和43年		
瑞豊	昭和13年	昭和35年		
農林8号	昭和14年	昭和24年		
農林18号	昭和16年	昭和44年		
農林29号	昭和19年	昭和43年		
農林33号	昭和19年	昭和36年		
農林37号	昭和21年	昭和29年		
農林39号	昭和23年	昭和36年		
農林36号	昭和24年	昭和29年		
肥後もち4号	昭和24年	昭和36年		
農林22号	昭和28年	昭和37年	昭和37年	昭和44年
旭もち	昭和28年	昭和35年		
ベニセンゴク	昭和29年	昭和40年		
ナカセンゴク	昭和29年	昭和36年	昭和36年	昭和37年
トワダ	昭和33年	昭和37年		
タカネニシキ	昭和33年	昭和37年		
アキバエ			昭和33年	昭和36年
信濃モチ3号			昭和33年	昭和43年
平和もち			昭和33年	昭和36年
ヤマトミ	昭和35年	昭和45年		
祝もち	昭和35年	昭和45年		
アリアケ	昭和36年	昭和50年		
ホウヨク	昭和36年	昭和45年		
越路早生			昭和37年	昭和41年
西南8号			昭和37年	昭和38年
フジミノリ			昭和38年	昭和45年
シラヌイ	昭和40年	昭和45年		
黄金錦			昭和40年	昭和54年
ハマミノリ	昭和41年	昭和46年		
ミホニシキ			昭和41年	昭和46年
ヤエホ			昭和42年	昭和47年
サイゴクモチ	昭和43年	昭和50年		
日本晴	昭和45年	平成9年	昭和43年	昭和45年
レイホウ	昭和45年	平成12年	昭和44年	昭和45年
			平成12年	平成17年
カグラモチ			昭和44年	昭和53年
トヨタマ	昭和45年	昭和56年		
テンリョウ	昭和45年	平成9年		
ナツコガネ			昭和45年	昭和53年
アカネモチ	昭和46年	平成5年		
トドロキワセ			昭和47年	昭和57年
ツクシバレ			昭和48年	昭和53年
あそみのり			昭和48年	昭和57年

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
ミナミニシキ	昭和50年	平成9年		
ニホンマサリ			昭和51年	昭和62年
ミズホ			昭和51年	昭和56年
コガネマサリ	昭和53年	平成元年		
宮崎もち			昭和53年	平成元年
クレナイモチ	昭和50年	平成9年		
ニシホマレ	昭和54年	平成元年		
コシヒカリ	昭和59年		昭和56年	昭和59年
シンレイ			昭和56年	平成5年
黄金晴			昭和57年	平成5年
ニシヒカリ			昭和59年	平成元年
ミネアサヒ			昭和59年	平成12年
ヒヨクモチ	平成9年		昭和59年	平成9年
旭1号	昭和62年	平成9年		
ヒゴノハナ	平成元年	平成9年		
ヒノヒカリ	平成元年			
山田錦	平成元年	平成9年	平成9年	
ユメヒカリ	平成2年	平成17年		
ホシユタカ	平成2年	平成9年		
キヌヒカリ	平成3年			
ゆめみのり			平成3年	平成10年
ヒノクニオトメ	平成5年	平成9年		
つぶより	平成5年	平成9年		
よかほなみ	平成5年	平成9年		
なつのたより			平成5年	平成12年
峰の雪もち			平成8年	
あきげしき	平成9年			
森のくまさん	平成9年			
夢いずみ	平成9年	平成15年		
バンバンザイ			平成10年	平成20年
いただき	平成12年	平成20年	平成20年	
秋音色			平成15年	平成22年
あきまさり	平成17年			
くまさんの力	平成20年			
ミズホチカラ			平成22年	
北陸193号			平成22年	
わさもん			平成23年	
華錦			平成27年	
くまさんの輝き	平成29年			

(5) 麦類奨励品種の改廃

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
九州裸3号			昭和22年	平成6年
農林61号	昭和24年	平成9年		
シラヌイハダカ	昭和30年	平成2年		
エビスコムギ	昭和33年	昭和48年		
ハシリハダカ	昭和35年	昭和48年		
ニチリンコムギ	昭和39年	昭和48年		
成城17号			昭和41年	昭和53年
オマセコムギ	昭和45年	昭和54年		
カワサイゴク	昭和49年	昭和55年		
ゴガツコムギ	昭和50年	昭和55年		
あかぎ二条	昭和52年	昭和59年		
シロワセコムギ	昭和53年	平成元年		
ダイセンゴールド	昭和53年	平成9年		
アサカゼコムギ	昭和54年	昭和62年		
あまぎ二条	昭和55年	平成9年		
シロガネコムギ	昭和62年			
ニシノゴールド	昭和62年	平成11年		
ニシノチカラ	昭和63年	平成20年		
チクゴイヅミ	平成6年			
アサカゴールド	平成6年	平成11年		
イチバンボシ			平成6年	
ニシノホシ	平成11年			
ミサトゴールド			平成11年	平成20年
ニシノカオリ			平成15年	
ミナミノカオリ			平成16年	
はるしづく	平成20年		平成16年	平成20年

(6) 大豆奨励品種の改廃

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
ホウギョク		昭和49年		
アソマサリ		昭和49年		
アソムスメ		昭和49年		
アソアオガリ		昭和49年		
白莢1号	昭和24年	平成元年		
コガネダイズ	昭和24年	平成元年		
ヒゴムスメ	昭和40年	平成9年		
アキヨシ	昭和49年	平成元年		
ヒュウガ	昭和49年	平成元年		
アキシロメ	昭和56年	平成9年		
フクユタカ	昭和56年			
すずおとめ			平成17年	
すずかれん			平成23年	



## 熊本県主要農作物奨励品種決定調査基準及び奨励品種決定基準

### 第1 奨励品種決定調査基準

#### 1 奨励品種決定調査の方法

(1) 奨励品種決定調査（以下「調査」という。）の対象となる品種は、次のすべての要件を満たすものの中から熊本県農業研究センターが決定する。

ア 調査に支障のない程度に品種の固定が進んでいること。

イ 調査に必要な種子が十分に供給されていること。

ウ 病害虫抵抗性、食味、その他の主要な特性について、検定により明らかにされていること。

エ 他県の既存の奨励品種（以下「対象品種」という。）との比較栽培試験等により、対象品種より改善された点が認められること。

オ 調査の協力体制が整っていること。

#### (2) 調査の申請

品種育成者は、調査を受けようとする品種について、(1)のアからオまでの事項に関する資料を添えて県に次により申請を行うものとする。

① 提出期限	春夏作	原則として	2月末日
	秋冬作	〃	9月末日

② 提出先 熊本県農業研究センター

#### 2 調査の期間

(1) 調査の期間は、原則として3カ年とする。

ただし、3年未満の調査であっても他県の都道府県その他の機関の調査から調査対象品種の特性が明らかかな場合はこの期間を短縮することができる。

(2) 基本調査は、調査対象品種の特性を明らかにするため、第1年目に予備調査、第2年日以降に本調査を行う。

ただし、当該品種の特性が明らかかな場合には、予備調査を省略することができる。

(3) 現地調査は、基本調査の予備調査が終了後に行う。

#### 3 調査に用いる品種調査には、次の品種を含めることとする。

(1) 標準品種 調査対象品種の比較対象の基準となる品種。

(2) 比較品種 特定の形質を比較するための品種。

4 調査の栽培試験で用いる耕種基準は、国の基準を参考に熊本県農業研究センターが別に定める。

## 第2 奨励品種等の決定基準

### 1 奨励品種等の採用基準

(1) 奨励品種等の採用に当たっては、おおむね次の基準のいずれかを満たす品種のうち、普及上特に支障となる欠点がないものの中から選定するものとする。

ア 対象品種と比較して、収量、病虫害抵抗性、品質、食味その他栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性を総合的に勘案して明らかに優れているものと認められること。

ただし、選定しようとする品種が普及対象地域の範囲または生産物の用途について制限のある場合はこの限りではない

イ 対象品種と比較して、収量、病虫害抵抗性、品質、食味その他栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性のいずれかについて明らかに優れていると認められること。

(2) 県が奨励する品種として奨励品種と認定品種を設定する。

認定品種とは奨励品種決定調査の結果、下記のいずれかに該当するものとする。

ア 当該品種の地域または用途が制限されているもの。

イ 奨励品種にするには課題が残されており、奨励品種にするまでに段階をおくことが適当と考えられるもの。

ウ 作付面積が減少しているが、廃止するまでに猶予期間をおくことが適当と考えられるもの。

(3) 奨励品種等の廃止基準

奨励品種の採用後、次のいずれかに該当すると認められるときは、当該品種等を廃止する事ができる。

ア 奨励品種等の特性が変化し、1の(1)の基準を満たさなくなった場合。

イ 普及対象地域で栽培上重要とされる特性または生産物上重要とされる特性に関し、重大な欠陥が明らかになった場合。

ウ 当該品種の作付面積が著しく減少し、今後とも増加の見通しが無くなった場合。なお、その基準は別表の通りとする。

エ 新たな奨励品種によって代替が可能である場合。

オ 当該品種の種子の供給が困難となった場合。

## 第3 その他

ここに定めるものの他、必要なものについては奨励品種審査会で審議のうえ別に定めるものとする。

(別表) 奨励品種廃止の基準

作物の種類	全作付面積に対する当該品種の作付割合
稲	1% (水陸稲ごと)
麦類	1% (麦種ごと)
大豆	1%

注1 地域を限定した品種：作付面積に対する作付割合が上表に満たない場合は、当該品種の当初普及見込み面積の概ね10%を目安とする。

注2 用途を限定した品種：需要に応じた生産の必要がある品種の場合は、原則として面積の制約は受けない。

注3 新たに採用した品種：作付割合の制限を原則として4年間は適応しない。